

2017年6月5日

一般社団法人レインボーフォスターケア
代表 藤めぐみ

弊団体に関する Facebook 上の投稿やコメントについて

一般社団法人レインボーフォスターケアは、2017年5月27日、「児童養護施設における性的マイノリティ（LGBT）児童の対応に関する調査」について報告会を行い、HP上に報告書を公表しました。その直後から、特定の Facebook ページで、弊団体に関する誤った情報を含む投稿やコメントが書き込まれており、また、その書き込みは個人への中傷に及びかねないものとなっています。

下記の通り、誤った情報を訂正するとともに、個人への中傷に及びかねない記載には強く抗議します。

記

1. 「LGBT の子どもがいる可能性は否定しませんが、団体が主張する行動例だけの決めつけは問題です。発表団体は、何が狙いなのでしょう？LGBT と某団体が推測する子どもだけへの特別待遇を求め、他の子どもたちは、施設の集団生活でも構わないと言っているかのようです。一部の子どもの特別待遇を求めるということは、それ以外は切り捨てているに等しいです。」との記載について

こちらの投稿は主に報道に対するものですが、弊団体への言及があるため、正確な情報を記します。

本調査では、児童養護施設職員が「性的マイノリティと推察する」事例をお聞きしています。弊団体が主体的に特定の児童を性的マイノリティと推測したり、決めつけている事実はありません。

また、本調査の目的は「複数の児童とともに集団生活を行う環境は性的マイノリティ児童のみならず、施設で暮らすすべての児童に負担となる可能性があります。ユニットケアや小規模型でも、養育者の入れ替わりで、子どもと長期的に関係性が築けないこともあるかもしれません。入浴環境や就寝環境がどのような環境か、職員がどのような対応を行っているか、対応に困る点はあるか等を調査し、全体的な QOL（生活の質）の改善に役立てることもその目的としています。」（報告書 1～2 頁記載）と記しており、一部の児童の特別待遇を求め、それ以外の児童を切り捨てるものではありません。そして、報告書には「『個室がとれないのでプライバシーの配慮が難しい』『ユニット内の個室には鍵をつけていない』といった問題は、性的マイノリティ児童のみならず、施設で過ごす児童全体の生活に関わる問題といえ

るだろう」とのコメント（報告書25頁）なども付記しており、施設で過ごすすべての児童に関わる問題について言及しています。

2. 「LGBT の PR に、児童養護施設の子どもが利用されている印象があります」「自身が LGBT であることを正当化するために、児童養護施設の子どもまで利用する。児童養護施設の性暴力・性虐待の問題を隠蔽する行為でしかありません。やり方が汚ないです。（原文ママ）」との記載について

本調査は「LGBT を PR する」ことを目的として掲げておらず、そういった意図も持ち合わせておりません。また、弊団体が児童養護施設の子どもを利用する意図をもって活動したことは一切ありません。報告書では、多くの自由記述回答を掲載しており、児童養護施設の諸問題を意図的に隠蔽したこともありません。これらの記述はすべて、事実に反する記載です。そして、「自身が LGBT であることを正当化するために」との記載は、何の根拠もなく、特定の個人の人格を傷つけ、誤った認識を広めかねないものです。これらの記載について強く抗議します。

3. その他報告会での意見に関する記載について

その他報告会での意見などについて誤った記載があります。こちらについては、「言った・言わない」のやり取りは不毛ですので、今後、弊団体から客観的な証拠に基づいて正しい情報を発信していきたいと考えております。

以上